経験豊富なドクタートラストの 保健師を導入してみませんか?

保健師ってどんなことをするの? 保健師を導入するとなにかメリットがあるの? そんな疑問にお答えします!

保健師の基本業務・

訪問例:月2回各2時間/計4時間想定

★ 健診結果の情報整理と集計

情報整理とは? 異常所見者のピックアップ、職場で多い所見項目の集計、会社で抱える問題の提起や調査など

- ★ 衛生委員会への出席 (議題の立案や健康情報提供を行います)
- ★ 保健指導業務(社員の健康改善・維持・増進のため健康相談を行います) 例:健康診断の結果をもとに「(要)治療」、「(要)経過観察」レベルの人を面談

- ・事業所一斉面談(全員面談)
- · 育休復帰後面談 / 産休前面談
- ・入社3ヶ月後面談
- ・過重労働面談者のスクリーニング
- ・産業医の選任義務のない事業場(従業員が50名未満)への訪問・面談
- ・メンタル相談、健診結果の「経過観察」レベルの人、「要再検査」レベルの人で 産業医面談が間に合わない人との面談。
- ・月1回の産業医訪問では次の面談までに1ヶ月期間があいてしまうため、 保健師が面談→結果を産業医と共有をしてフォローする など

どんな人の面談??

メンタル不調者、健診の結果が優れない方、上司等が気になる社員など

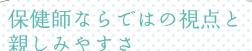
保健師導入のメリット

メリット1

産業医との役割分担、 業務の充実

産業医だけでは時間的に行うことができない 業務を、保健師が連携・分担することで、 業務の充実と高い効果が期待できます。

メリット2



産業医(医師)とは違った視点で、社員の方へ の保健指導ができ、

産業医との面談よりも気楽に面談を受けることができます。







各企業の担当者さん・社員さんの反応

産業医との業務分担

- ・今まで産業医が検診結果の判定業務を行っていた が、保健師が行うことで面談や相談する時間が増 えた。
- ・面談者数が大幅に増えたが、産業医は休職・復職 面談などに集中できるようになった。

保健師の専門性

- 保健師は就業判定をしないため、気軽に相談ができ、 職場が抱える問題や不満などを拾ってくれる。
- ・個人の病気だけでなく定期的に健康・衛生管理・ 労基などの情報や資料をくれるので助かっている。



訪問開始時と現在の状況の変化

産業医との業務分担

- ・産業医の選任義務のない事業場(従業員が50名 未満)ですが、専門家の意見は参考になり、とても 重宝している。
- ・産業医の先生より訪問頻度が多く、 リピートしての相談がしやすくなった。

保健師の専門性

- ・社員とも顔なじみになり、ちょっとしたことで相談 に行くようになった。
 - (例:ダイエットの経過報告や、家族の相談等)
- ・人事として衛生管理の仕事がとても楽になった。



問を通して感じること

産業医との業務分担

- 産業医面談は優先度が高いメンタル相談や要治療レ ベルの人に限られてしまうことが多く、潜在層を拾 い上げるのは時間的に難しいので助かっている。
- ・保健師は訪問時間も長いので、色々なケースの面談 を実施することができ、「予防」という点で特に意味 がある。

保健師の専門性

- ・産業医と保健師は役割が違うのでセットで訪問を して頂くと抜群の安定感がある。
- ・定期的に保健指導を受けることで、自然と健康へ の意識が高くなっているのを感じる。
- ・食事、運動などについて具体的なアドバイスを もらえるので、とてもためになる。



介 業の意識の変化

産業医との業務分担

安全衛生委員会の場で意見を求めると、 保健師ならではの意見を頂け、参考になる。 また、風疹や鳥インフルエンザなど、社としての 対応を決める際も、メールなどで資料や意見を求め ることができ、とても心強い。

保健師の専門性

- ・過重労働やメンタルは面談者との相性が大きく 影響することがあり、保健師を導入した結果、 相談しやすい方を選択することができ、特に メンタル相談では効果が大きいと感じました。
- 社員の不満の声が聞けるようになった。